

イセアオスゲとハガクレスゲの分布

勝 山 輝 男

(神奈川県立博物館)

Distributions of *Carex karashidaniensis* & *Carex jacens* (Cyperaceae) in Japan

Teruo KATSUYAMA

(Kanagawa Prefectural Museum)

Abstract *Carex karashidaniensis* was described by Akiyama (1973) based on specimens from Karashidani of Mie Prefecture. But there is no report concerning of this plant since then. Specimens from Mt. Tanzawa that was regarded as *Carex jacens* by Katsuyama in Flora Kanagawa 1988, are referable to this plant. And some specimens of this plant collected from Tokyo Metropolis, Yamanashi Prefecture, Shizuoka Prefecture and Mie Prefecture are found in herbariums. This plant is closely related to *Carex jacens* but can be clearly distinguished from the latter species by the characters of leaves longer than culms and utricles long-becked with bidentate mouth at apex. *Carex karashidaniensis* is distributed in summer green broad-leaved forest zone, in the Pacific side of central Honshu. *Carex jacens* is distributed in subalpine conifer forest zone, in the Japan Sea side of central and northeastern Honshu and Hokkaido.

イセアオスゲ *Carex karashidaniensis* Akiyama は伊勢の唐子谷で採集された標本に基づいて秋山 (1937) により記載されたものである。全体にハガクレスゲに似るが、大株をなし、葉は花茎よりも高く、果胞の嘴が長いことなどを特徴としている。しかし、秋山 (1937, 1955) の他には杉本 (1973) に名前が出ているくらいで、その実体はよく理解されていない。筆者が「神奈川県植物誌1988」でハガクレスゲ *C. jacens* として報告したものはイセアオスゲであることが判明した。また、神奈川県立博物館、東京大学総合研究資料館、国立科学博物館、東京都立大学牧野標本館などにあるハガクレスゲやアオスゲ類の標本を再検討したところ山梨県、静岡県、三重県産のイセアオスゲの標本を見いだすことができた。そこで、イセアオスゲの形態と分布、誤認されやすいハガクレスゲや根際に雌小穂をつけるアオスゲ類について述べたい。

1. イセアオスゲ

Carex karashidaniensis Akiyama in Journ. Jap. Bot. 13 : 652, (1937); Akiyama, Caric. Far East. Reg. As., 186, (1955); Sugimoto, Keys Herb. Pl. Jap. II, 168, (1973).

'*Carex jacens* C. B. Clarke': sensu Katsuyama in Fl. Kanagawa 1988, 372, (1988).
Japanese name: Ise-ao-suge

Distribution: See Fig. 4

叢生し、匍枝はなく、高さ5~10cm。基部の鞘は淡色。葉は軟らかく幅1~2.5mm、果時に花茎よりも著しく高い。苞葉はきわめて短い鞘があり、葉身は花茎よりも高い。頂小穂は雄性で小さく、緑白色で長さ3~6mm。側小穂は雌性で2~4個、2~6花をつけ、長さ4~8mm。最上部の雌小穂はしばしば雄小穂に接してつき、下方の小穂はしだいに離れ、最下の雌小穂は根際につく。雌花の鱗片は緑白色で果胞よりもやや短く、先端は鋭頭または短く芒状。果胞は長さ3~3.5mm、細いが明らかな脈が数本あり、はっきりとした短毛があり、先はしだいに長い嘴となり、先端はやや鋭い2歯となる。そう果は果胞に堅く包まれ、長さ約1.7mm、上部の円盤状の付属体は大きく目立ち、果体との間は明瞭にくびれる。柱頭は3。

筆者は「神奈川県植物誌1988」編纂のために丹沢の植物を詳細に調べた。その際、丹沢の主稜線の標高1300m以上のブナ林の林床で、ハガクレスゲに似たスゲ属植物を採集した。当初、他の地域のハガクレスゲと十分な比較検討を行わなかったために、「神奈川県植物誌1988」ではハガクレスゲと誤認してしまった。その後、この丹沢の“ハガクレスゲ”は葉が花茎よりも著しく高いこと、果胞が長さ3~3.5mmあり、嘴が長いことなど、北海道・東北地方・北アルプスなどの本当のハガクレスゲとは異なることに気がついた。これらの特徴は秋山(1937, 1955)のイセアオスゲの記載とよく一致する(図1, 図2)

イセアオスゲは形態的にはハガクレスゲに似ている。ハガクレスゲは果時に葉が花茎と同長かやや短く、果胞は長さ2.5~3mmと小さく、果胞の脈は不明瞭で無毛または微毛があり、果胞の嘴はあまり長くのびない。そう果の円盤状の付属体もイセアオスゲのように大きくはない。これらの諸点に注意すれば、イセアオスゲとハガクレスゲを区別するのは容易である。

神奈川県立博物館、東京大学総合研究資料館、国立科学博物館、東京都立大学牧野標本館などにあるハガクレスゲやアオスゲ類の標本を再検討したところ静岡県、山梨県、三重県産のイセアオスゲの標本を見いだすことができた。また、小崎昭則氏が東京都奥多摩で採集された標本を確認させていただいた。ハガクレスゲが本州中部の日本海側から北海道にかけての針葉樹林帯に分布するのに対し、イセアオスゲは本州の太平洋側山地のシイ・カン帯上部からブナ帯の林床に生える(図4)。前述したようにイセアオスゲは秋山(1937, 1955)に詳しく記載が出ているが、それ以外では杉本(1973)に名前がでているだけで一般にはほとんど知られていない。今後、四国や九州など太平洋側の山地からも発見される可能性がある。

2. ハガクレスゲ

Carex jecens C. B. Clarke in Kew Bull. add. ser. VIII, 80, (1908); Akiyama, Journ. Jap. Bot. 16: 217, (1940); Akiyama, Caric. Far East. Reg. As., 186, (1955); Ohwi, Fl. Jap. rev. ed., 265, (1965); Sugimoto, Keys Herb. Pl. Jap. II, 168, (1973); Koyama. T., Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo Sect. (3) 8: 168; Kitamura et al., Colour. Illust. Herb. Pl. Jap. (Monoct.), 273, (1964).

Carex jacens C. B. Clarke var. *pubescens* Akiyama in Journ. Jap. Bot. 16: 217, (1940); Akiyama, Caric. Far East. Reg. As., 187, (1955); Sugimoto, Keys Herb. Pl. Jap. II, 168, (1973).

Carex geantha Ohwi in Mem. Coll. Sci. Kyoto Imper. Univ. ser. B 5 : 265, (1930); Ohwi, Cyper. Jap. I, 357, (1936); Akiyama, Consp. Car. Jap. 139, (1932); Akiyama, Journ. Jap. Bot. 13 : 653, (1937).

Carex geantha Ohwi var. *pubescens* Akiyama in Journ. Jap. Bot. 13 : 653, (1937).
Japanese name: Hagakure-suge

Distribution: See Fig. 4.

ハガクレスゲは加賀の白山の標本に基づいて大井 (1930) により *Carex geantha* Ohwi と名付けられたが、後に秋山 (1940) により *C. jacens* C. B. Clarke と同一とされ、今日ではこの学名が用いられている。ハガクレスゲは和名が示すとおりに下方の雌小穂が根際につき、葉の間に隠れる。ハガクレスゲの形態に関しては、Ohwi (1936), 秋山 (1955), 吉川 (1957), 大井 (1965) などにくわしいので、詳細は省略するが、根際に雌小穂をつけることを重視しすぎると、アオスゲの小型の一形で、筆者が「神奈川県植物誌 1988」でニイタカスゲ *C. breviculmis* R.Br. var. *morissonicola* (Hayata) としたものや、一般にメアオスゲ *C. breviculmis* R. Br. var. *aphanandra* (Franch. et Savat.) Kukenth. とされているものと混同するので注意が必要である。

ハガクレスゲや前述したイセアオスゲの雌小穂は上部のものから下方のものになるにつれて次第に離れてつき、最下の雌小穂は根際につく。したがって花茎の中部にも雌小穂をつける。ニイタカスゲやメアオスゲは根際に一つだけ離れて雌小穂をつけるが、他の雌小穂は上部にかたまってつき花茎の中部には小穂をつけない。(図3)

また、ハガクレスゲの果胞は長さ2~2.5mmと小さく、3稜が明瞭で果胞の面がふくれることはない。したがって、果胞はアオスゲ類に比べて全体に瘦せた感じがする。嘴は短い先端はかなりはっきりとした2歯となり、普通は毛がないが、微毛を有するもの、疎らに短毛を有するものなどもある。一方、ニイタカスゲやメアオスゲなどアオスゲ類の果胞は長さ3~3.5mmあり、果胞の面が膨らむので、よく熟すと3稜形というよりも丸く感じる。嘴は短く、先端に2歯はなく、有毛。慣れると果胞の形だけで、ハガクレスゲ、イセアオスゲ、アオスゲ類の区別はつく。(図2)

ハガクレスゲの果胞の有毛のものをケハガクレスゲ *C. jacens* C. B. Clarke var. *pubescens* Akiyama といい、秋山 (1937) が岩手県栗駒山産の標本に基づいて命名したものである。東京大学総合研究資料館に「*Carex jacens* v. *pubescens* Akiyama, det. Akiyama, 1942」と書かれたケハガクレスゲの標本(栗駒山, 鈴木長治, Aug. 3, 1935)がある。この標本は果胞は有毛であるが、他の点ではハガクレスゲと全く同じである。ハガクレスゲの果胞はルーペではほとんど無毛であるが、時に微毛が確認できることも多い。秋山 (1937) の原記載には果胞が有毛である他に、葉がいくぶん直立することがあげられている。しかし、今回確認できたケハガクレスゲと思われる標本(青森県八甲田山, S. Hayashi, July, 7, 1929, MAK 221174; 岩手県栗駒山, 鈴木長治, Aug. 1935, T1; 新潟県笹ヶ峰, 大井次三郎, July, 29, 1929, TNS 220045)については、果胞が有毛な他には区別点は見いだせなかった。分布もハガクレスゲと重なっており、ケハガクレスゲとして明確に区別することは困難と思われる。したがってケハガクレスゲはハガクレスゲの変異の範囲と考える。

杉本 (1973) ではケハガクレスゲを *C. jacens* C. B. Clarke form. *pubescens* Mizushima とし、産地として奥羽と木曽をあげている。木曽の産地は水島 (1958) に基づいたものと思われる。東京大学総合研究資料館にケハガクレスゲ *C. jacens* var. *pubescens* とされた木曽御岳日

ノ出滝～三ノ池産の標本（水島正美，July，21，1952）が2枚あるが，これはいずれもメアオスゲまたはニタカスゲとすべきものである。

静岡県植物誌（杉本，1984）のハガクレスゲの項には寸又川上流（山崎氏）とあるが，東京大学総合研究資料館にある，「遠江大井川支流寸又川 alt. 1000m，山崎敬，June，13，1954」の標本は前述したイセアオスゲである。

筆者が確認できた標本に基づくハガクレスゲの分布を図4に示したが，ハガクレスゲは北海道，東北，本州中部の日本海側で，主に針葉樹林帯の林縁や路傍に生えるものと考えられる。八ヶ岳富士山，奥秩父，南アルプス，木曽御岳など太平洋側の山地のハガクレスゲ（ケハガクレスゲも含めて）の標本はこれまでのところ確認できていない。上記の産地以外からのハガクレスゲ（ケハガクレスゲを含む）の報告が文献に散見されるが，これらについてはメアオスゲまたはニタカスゲ，あるいはイセアオスゲの可能性があり，標本を再検討する必要がある。

最後に本稿をまとめるにあたり，東京大学総合研究資料館，国立科学博物館，東京都立大学牧野標本館，東京都高尾自然博物館の標本を閲覧させていただいた。関係の先生方に厚く御礼申し上げる。また，植物誌調査から今日にいたるまで，たえず暖かいご指導をいただいた千葉県立中央博物館の大場達之博士，神奈川県立博物館の先輩諸兄，神奈川県植物誌調査会会員の皆様に感謝する。

分布資料

1. イセアオスゲ *Carex karashidaniensis* Akiyama

東京都 西多摩郡奥多摩町御岳山越沢 alt. 700m，小崎昭則 No. 7892，May. 5，1985，KPM 77132；**神奈川県** 足柄上郡山北町塔ヶ岳～丹沢山，勝山輝男，Jun. 5，1983，KPM flk-74229；山北町石棚山，勝山輝男，Jun. 9，1985，KPM flk-74227，flk-74230，flk-74231，flk-74234；石棚山，勝山輝男，Jun. 15，1986，KPM flk-74235；山北町桧洞丸，勝山輝男，Jun. 9，1985，KPM flk-74232；山北町世附川，高橋秀男，Jun. 13，1987，KPM flk-74233；津久井郡津久井町桧洞丸，勝山輝男，Jun. 15，1986，KPM flk-74228；**山梨県** 御座石～石空川，大場達之，June. 5，1955，KPM 37643，37649，37650；**静岡県** 静岡市平野，大村俊郎，May. 13，1956，KPM 112，113；榛原郡本川根村寸又峽 alt. 1000m，山崎敬，June. 13，1954，TI（この標本は *C. jacens* と同定されていた）；**三重県** 一志郡美杉村，G. Murata & N. Fukuoka，May. 15，1963，MAK 44318（この標本は *C. rugata* と同定されていた）；伊賀北山峽，百永章，May. 30，1951，TNS 98677（この標本は *C. breviculmis* と同定されていた）。

2. ハガクレスゲ *Carex jacens* C. B. Clarke

北海道 斜里岳山麓，古瀬義 no. 9273，July. 29，1975，KPM 66893；羅臼岳山麓，古瀬義 no. 9215，July. 25，1975，KPM 66937；羅臼岳山麓，古瀬義，July. 28，1954，TNS 116742；上川郡上川町赤岳，古瀬義 no. 6730，Aug. 10，1974，KPM 64643；北見白滝平山，岡本省吾，Aug. 2，1959，TNS 154318；大雪山系ニセイカウシュッベ山，館脇操，Aug. 9，1947，TNS 81344；大雪山，館脇操，Aug. 13，1947，TNS 81325；大雪山，G. Koidzumi，Aug. 1911，TI；大雪山，奥山春季，July. 18，1941，TNS 69255；大雪山，杉本順一，Aug. 3，1928，TNS 220010；芦別岳，古瀬義，July. 27，1957，KPM 53243；夕張岳，古瀬義，July. 23，1957，KPM 57221，57302；夕張岳，大場達之 no. 24116，July. 27，1964，KPM 41340；夕張岳，大

井次三郎, July, 1937, TNS 222153; 十勝岳, U. Faurie No. 6533, July, 1905, TNS 266 264; 札幌市定山溪, 大井次三郎, June, 27, 1934, TNS 222160; **青森県** 八甲田山, S. Saito, Aug. 14, 1937, TI; 八甲田山, 細井幸兵衛, July, 25, 1949, TI; 八甲田山, 水島うらら, July, 9, 1952, TI; 八甲田山, 栗田勲, July, 19, 1940, TNS 64378; 八甲田山, 細川正明, Aug. 1929, MAK 240642; 八甲田山, S. Hayashi, July, 7, 1929, MAK 221174 (ケハガクレスゲ); 岩木山, E. Kinashi, July, 1909, TI; 岩木山, July, 7, 1907, MAK 217699; 岩木山, July, 20, 1913, MAK 224056; **岩手県** 八幡平, 服部景隆, Aug. 4, 1937, TI; 八幡平, 水口清, Aug. 1930, TNS 36795; 岩手山, 高橋秀男, July, 9, 1973, KPM 52768, 52781; 焼石岳, 古瀬義, July, 22, 1958, KPM 53833; 焼石岳, 古瀬義, July, 24, 1958, KPM 35927; 早池峰山, July, 27, 1906, MAK 221866; 栗駒山, 鈴木長治, Aug. 3, 1935, TI (ケハガクレスゲ *C. jacens* var. *pubescens* det. Akiyama のラベルあり); **秋田県** 鳥海山, ?, July, 28, 1887, TI; 鳥海山, 古家儀八郎, July, 27, 1955, TNS 128565; **山形県** 月山, July, 23, 1887, TI; 月山, 長沢利英, July, 23, 1887, TNS 54485; 月山姥沢小屋 alt. 1200m, Y. Yuki, Aug. 5, 1954, MAK 6333; 吾妻山人形石 alt. 1920, 斎藤慧, Aug. 2, 1965, TI; 吾妻山西大嶺~馬場谷地, 斎藤慧, Aug. 3, 1965; **福島県** 吾妻山谷地平, 勝山輝男, 1991, KPM; 吾妻山, S. Okuyama, July, 26, 1931, TNS 293330; 吾妻山, S. Saito, July, 22, 1975, TNS 369305; 尾瀬燧ヶ岳, 斎藤慧, Aug. 8, 1966, TNS 222857; **栃木県** 鬼怒沼山, H. Ishikawa no. 16, July, 29, 1965, KPM 8596; 日光, 多胡貞三郎, May, 1973, MAK 222198; **群馬県** 尾瀬ヶ原, S. Okuyama, July, 22, 1934, TNS 45177, 279050; 尾瀬ススケ峰, 水島正美, July, 7, 1951, TI; 尾瀬沼畔, 水島正美, July, 14, 1950, TI; 尾瀬沼, 水島正美, July, 14, 1950, TNS 82571; 尾瀬山の鼻, 水島正美, July, 18, 1950, TNS 82589; 尾瀬富士見峠, 関本平八, July, 27, 1934, TI; 尾瀬鳩待峠, 奥山春季, July, 21, 1934, TNS 45178; 武尊岳, 宮前利男, July, 1961, TNS 170487; 白砂山, 大川ち津る, July, 27, 1974, TNS 426070, 426071; **新潟県** 苗場山, 奥山春季, July, 20, 1936, TNS 53052; 妙高山, S. Matsuda, July, 28, 1894, TI; 妙高山, 吉川純幹, Aug. 14, 1950, TNS 98373; 妙高山, 吉川純幹, July, 26, 1944, MAK 221866; 燕温泉, 吉川純幹, June, 14, 1947, TNS 101508; 南葉山, 吉川純幹, June, 8, 1941, TNS 101507; 蓮華温泉~天狗の庭, 高橋秀男, Aug. 5, 1966, KPM 50721; 雨飾山, 高橋秀男, Aug. 4, 1966, KPM 50722; 笹ヶ峰, 大井次三郎, July, 29, 1929, TNS 220045 (ケハガクレスゲ); **長野県** 下水内郡栄村切明, S. Ito, Aug. 8, 1971, KPM 57689; 志賀高原, S. Fujisawa, 1957, MAK 7360; 黒姫山, 吉川純幹, July, 4, 1954, KPM 37651; 黒姫山, June, 15, 1941; MAK 222197; 白馬岳, 杉本順一, July, 22, 1920, MAK 218102; 白馬岳八方山, Aug. 14, 1923, MAK 218101; 鳥帽子岳ブナ立尾根, 勝山輝男, July, 24, 1984, KPM 72789; 槍ヶ岳, 大場達之 No. 22685, July, 30, 1963, KPM 13501; **富山県** 上新川郡大山町有峰~真川, 久内清孝, July, 21, 1936, TNS 55974; 中新川郡立山町ザラ峠~立山温泉, 奥山春季, July, 19, 1955, TNS 277878; **石川県** 白山, 田代善太郎, July, 17, 1930, TNS 35067, 35068; 白山, 梅村基太郎, July, 24, 1901, MAK 108931.

文 献

Akiyama, S., 1932. Conspectus Caricum Japonicarum. Journ. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. (5) 2: 1-266. pls. 1-2.

秋山茂雄, 1937. すげ属植物雑記 (其五). 植物研究雑誌 13: 648-659.

秋山茂雄, 1940. すげ属植物雑記 (其七). 植物研究雑誌 16: 216-218.

- 秋山茂雄, 1955. 極東亞産スゲ属植物. 257pp., pls. 248. 北海道大学, 札幌.
- 勝山輝男, 1988. カヤツリグサ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌1988. pp. 318-380. 神奈川県立博物館, 横浜.
- 北村四郎・村田源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑(下). 4+464pp., pls. 108. 保育社, 東京.
- Koyama, T., 1962. Classification of Family Cyperaceae (2). Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo (3) 8: 149-278.
- 水島正美, 1958. 木曾御岳高等植物目録. 御岳研究自然編, pp. 507-567. 御岳駒ヶ岳総合調査会.
- Ohwi, J., 1930 Contributiones ad Caricologiam Asiae Orientalis. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. ser. B 5: 247-292.
- Ohwi, J., 1936. Cyperaceae Japonicae I. A Synopsis of Caricoideae of Japan, including the Kuriles, Saghalin, Korea, and Formosa. Mem. Coll. Sci. Kyoto. Imp. Univ. ser. B 11: 229-530. pls. 6-15.
- 大井次三郎, 1965. 改定新版日本植物誌. 4+1560pp., pls. 57. 至文堂, 東京.
- 杉本順一, 1973. 日本草本植物総検索誌II 単子葉編. 630pp.. 井上書店, 東京.
- 杉本順一, 1984. 静岡県植物誌. 4+4+814pp., pls. 4. 第一法規出版, 名古屋.
- 吉川純幹, 1957. 日本産スゲ属植物図譜1. 141 pp. 北陸植物の会, 金沢.

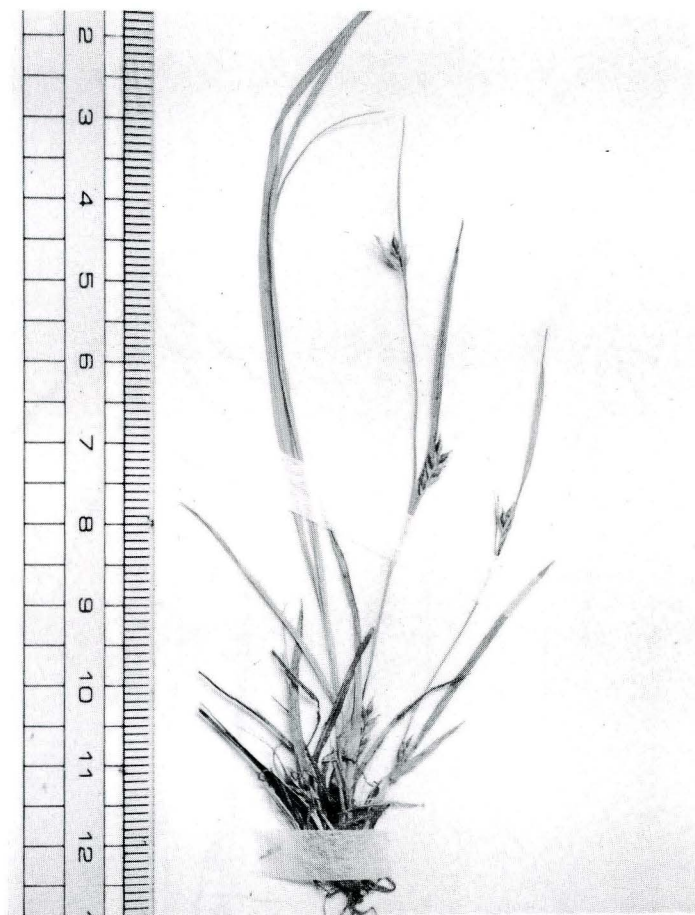


図1. イセアオスゲ *C. karashidaniensis*

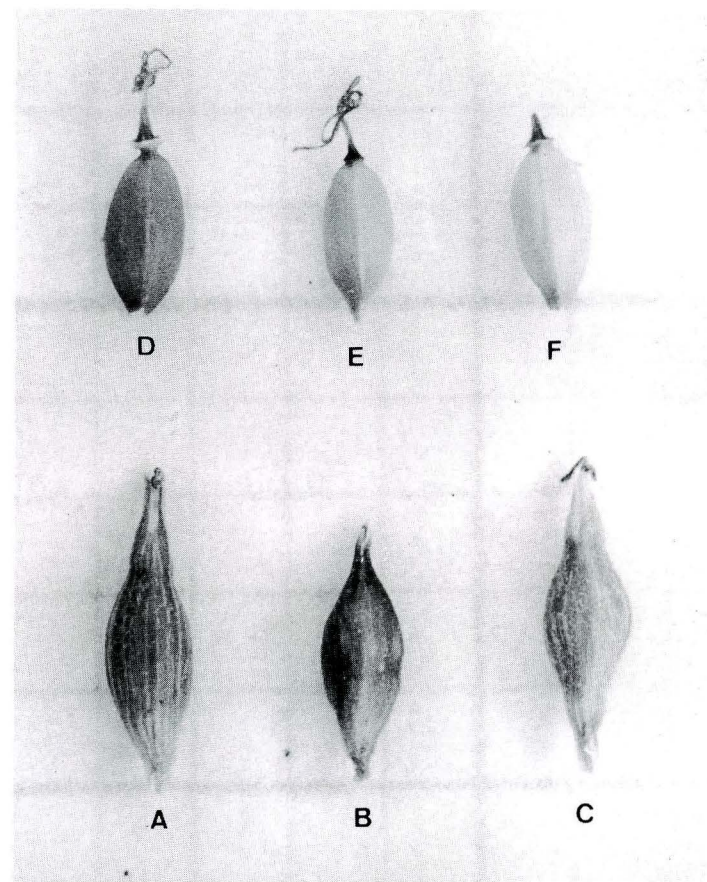


図2. A: イセアオスゲ *C. karashidaniensis* の果胞
 B: ハガクレスゲ *C. jacens* の果胞
 C: メアオスゲ (ニイタカスゲ型) の果胞
 D: イセアオスゲ *C. karashidaniensis* の果実
 E: ハガクレスゲ *C. jacens* の果実
 F: メアオスゲ (ニイタカスゲ型) の果実 (メッシュは1 mm)



図3. A: ハガクレスゲ *C. jacens* の花茎
B: メアオスゲ (ニイタカスゲ型) の花茎 (スケールは5 cm)

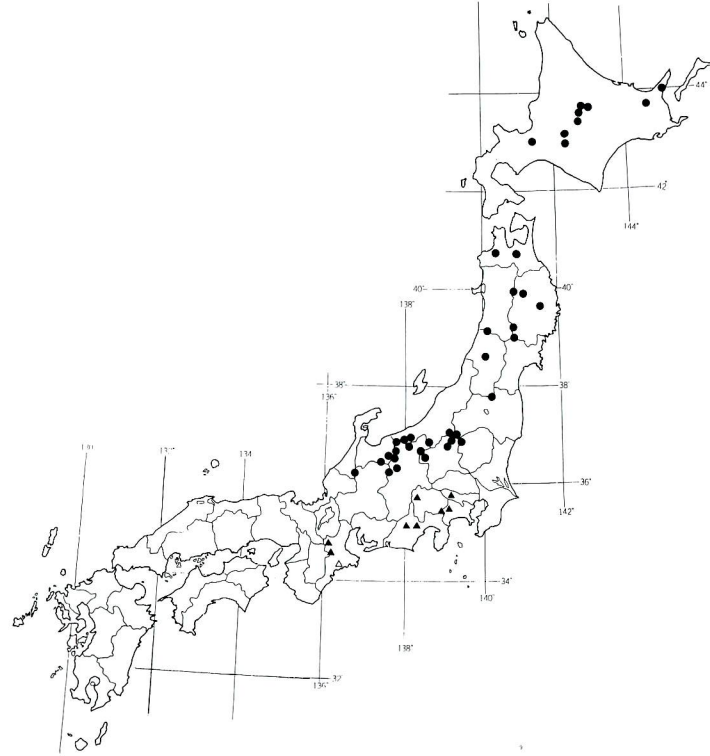


図4. イセアオスゲ *C. karashidaniensis* の分布 (▲) とタイ
ブローカリティー (△)
ハガクレスゲ *C. jacens* の分布 (●)